

3月16日（木）実施の「米軍オスプレイ横田基地配備レクチャー」の「残り宿題1問」
に関する資料要求

昨年11月25日（金）に北関東防衛局で、福生市議会議員全議員対象に「オスプレイの横田基地配備に伴う安全性について」説明を受けた。その際に、鈴木一等空佐（航空自衛隊入間基地 中部航空方面隊防衛部長）より、「2012年9月の日米合同委員会合意で、MV22は通常ほとんどの時間を固定翼モードで飛行する。運用上必要な場合をのぞき、MV22は通常米軍の基地区域内においてのみ垂直離着陸モードで飛行し、転換モードで飛行する時間をできる限り限定する、とある。基本的には、施設区域内は垂直離着陸モードで飛行する。」と説明をうけた。

しかし現実問題として、横田飛行場に飛来するMV22は、垂直離着陸モードの際、常時基地外にはみ出している実態がある。「説明と飛行実態」の違いについて、説明して頂きたい。

ご承知のとおり、平成24年9月のMV-22オスプレイに関する日米合同委員会合意において、「MV-22は、通常、ほとんどの時間を固定翼モードで飛行する。運用上必要な場合を除き、MV-22は、通常、米軍の施設及び区域内においてのみ垂直離着陸モードで飛行し、転換モードで飛行する時間をできる限り限定する。」とされています。

MV-22オスプレイの運用に際しては、米軍は累次の機会に当該合意に基づき飛行運用を行っている旨説明しており、防衛省としても、米軍は当該合意に基づき飛行運用を行っているものと認識しています。ご指摘の昨年11月25日の防衛省による説明は、この旨をお伝えしたものです。

防衛省としては、MV-22オスプレイの飛行運用については、地元の皆様の生活への最大限の配慮が大前提であり、今後とも当該合同委員会合意が適切に実施されるよう、地元の皆様のご意見等を踏まえつつ、米軍との間で必要な協議を行っていくなど適切に対応していく考えです。